

佐世保市 教育センターだより

No.264

平成30年3月1日

Sasebo City Educational Center佐世保市教育センター
佐世保市保立町12-31
TEL(0956) 76-7331

『成人式に思う』

佐世保市教育委員会

教育長 西 本 眞 也

少し前の話で恐縮ではあるが、今年も各地で成人式が開かれた。

佐世保も、心配した雨雪も降らず穏やかな天気の下、盛大に執り行われ、会場のアルカス SASEBOも、着飾った新成人たちの華やかな雰囲気包まれた。

私が本市の成人式にかかわるようになって2年になるが、「荒れる」成人式の話を書くたびに式典の間は軽い緊張感を抱いている。八年前の壇上駆け上がり事件が思い出され、話題になった市長の「喝!」が通用しない輩が上ってきたときは、一番近いところに座っている私が、阻止するべく、ちぎっては投げちぎっては投げの大活劇を演じなければならないのではないかと、少しばかり手のひらに汗をかくのであるが、今年もこのような心配は杞憂に終わった。

アトラクションから式典が閉じるまで、国歌、市歌の斉唱、決意表明、市民憲章の朗読など粛々と進み、堂々とした新成人の態度は実に立派であった。

新成人の前途に幸多からんことを切に祈るばかりである。

一方で、いつものことではあるが、会場前の広場では、数名の者がアルコールとおぼしきものをラップ飲みして係員から注意を受けていた。アルコールが飲めるようになったといううれしい気持ちはわからないではないが、小学校の時に屠蘇を盗み飲みして倒れた経験のある小生からすると兎戯に等しいもので、ある意味かわいいというくらいの気持ちである。

さて、「兎戯」というと、私は中学に進学したとき叔父から小さな額をいただいた。額には「稚心を去れ」という銘が書かれてあった。

「稚心」すなわち「甘えた心」と勝手に解釈しているが、己の行いに責任を持つ年齢になったことを自覚せよという戒めの言葉と受け取った。

この「責任を持つ」ということはどういうことか。私は、「事を起こす前に、その結果についても一定の予測を立てることができる想像力を持つこと。」でないかと考える。やってしまったことに対して責任を取るというのでは、遅すぎる。中学生でどう「責任」を取るのか。責任の取り方ではなく、中学

生の段階では予測された結果を自覚できるかどうかではないかと思うのである。

では、「想像力」はどうやって身に付けるのか。

私は、「体験」したことを深く、濃く、さまざまな方向から見る力に、すなわち「体験」を「経験」にまで昇華する力にあるのではないのかしらと思っている。

「体験」をいくら多く体験してもそれは単なる事件・事象の積み重ねでしかない。楽しかった、悲しかった、感動したというその場の感想はあってもその繰り返しの終われば、自分の中に何も残らない。幼いときはそれでも良いかもしれないが、一定の年齢に達したらそこからもう一歩進む必要があるのではないか。

わかりやすく言えば、「体験」したことで得られたもの、すなわち自分が感じたことの感想を、なぜ、どうしてそういう風な気持ちになったのか、また、どうすればよかったのかを分析し、咀嚼して、自分の言葉で自分自身が自覚することができることで、初めて「経験」したといえるのではないか。それは、「こうすれば、こうなるだろう」という「想像力」を養うことにもなるはずだ。

いま、学校現場で進められている「主体的・対話的で深い学び」は、単に「学力」のことだけに当てはめるのではないことは言わずもがなのことであろう。

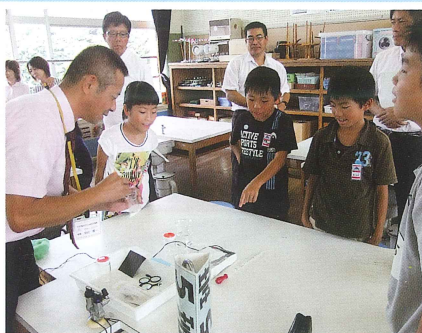
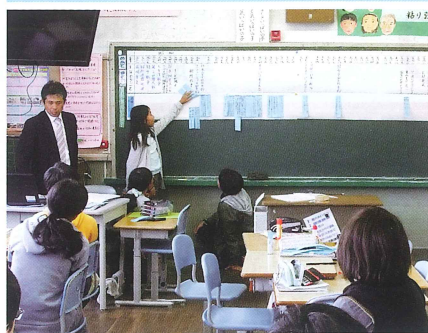
世界の偉人(?)を調べてみた。森鷗外は、若干11歳で東京大学医学に入学する。シューベルトは18歳の時に「魔王」を作曲し、35歳で没するが、生涯に1000曲以上の作品を残す。あのモーツァルトも35歳で没する。福沢諭吉は23歳で、後の慶應義塾を開く。吉田松陰は24歳でロシア艦密航に失敗し、29歳で処刑される。挙げればきりが無いが、昔の人の成熟度には驚かされる。

いま、民法の改正が取りざたされ、18歳を成人とすることになるようである。年齢と中身をいかに一致させるか、難しい問題となってくるだろう。

私自身、成人式での活劇妄想に緊張するようではまだまだと、反省、自戒することしきりである。

授業改善研修 研究主題「自らの未来をつくり出す資質・能力の育成～主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～」

小学校



国語 11月15日(水)

講座責任者 楠栖小学校 校長 片渕 満里子
研究授業 5年「伝記紹介ポップを書いて、伝記の良さをみんなに伝えよう。」
授業者 赤崎小学校 教諭 北川 翔太

社会 11月13日(月)

講座責任者 木風小学校 校長 佐藤 正実
研究授業 6年「新しい日本、平和な日本へ」
授業者 白南風小学校 教諭 町田 哲郎

算数 10月23日(月)

講座責任者 潮見小学校 校長 蒲川 法子
研究授業 6年「変わり方を調べて(1)」
授業者 黒髪小学校 教諭 道下 聖市

理科 9月6日(水)

講座責任者 相浦西小学校 校長 金子 圭一
研究授業 5年「もののとけ方」
授業者 三川内小学校 教諭 安井 健一

外国語活動 11月29日(水)

講座責任者 吉井北小学校 校長 藤田 直樹
研究授業 6年「出身を伝え合おう～国を表す言葉～」
授業者 祇園小学校 教諭 岩崎 陽子

道徳 11月28日(火)

研究授業 6年「相手の立場に立って親切に」
B-(7) 思いやり、親切
授業者 祇園小学校 教諭 永田 博

中学校



国語 10月31日(火)

講座責任者 三川内中学校 校長 諸熊 修一
研究授業 1年「文章と図表との関係を読み解こう」
授業者 山澄中学校 教諭 市田 美香子

社会 10月25日(水)

講座責任者 吉井中学校 校長 柳原 秀一
研究授業 3年「私たちの暮らしと民主政治 司法権の独立と裁判」
授業者 早岐中学校 教諭 鶴崎 拓也

数学 11月20日(月)

講座責任者 愛宕中学校 校長 岩波 直
研究授業 1年「比例と反比例」
授業者 早岐中学校 教諭 井手 豊人

理科 11月28日(火)

講座責任者 東明中学校 校長 平元 隆久
研究授業 1年「身のまわりの現象」
授業者 福石中学校 教諭 浦本 陽華

英語 11月28日(火)

講座責任者 光海中学校 校長 山口 一成
研究授業 3年「Striving for the Better World」
授業者 世知原中学校 教諭 田尻 尚加

道徳 11月21日(火)

研究授業 3年「よりよい生き方を考える」
D-(4) よりよく生きる喜び
授業者 日野中学校 教諭 山崎 みゆき

本年度は、各教科・領域において研究員を2名体制にし、小学校国語・算数、中学校国語・数学においては実践協力員を募集し、研修のさらなる充実を図りました。佐世保市の先生方の手で、佐世保市の授業改善に向けた、佐世保市ならではの「主体的・対話的で深い学び」を追究できたことには、大きな価値がありました。研究員が作成した指導案は、スクールネット佐世保「指導案等データベース」に格納しています。ご活用ください。

研究調査

「道徳」（3年次）



講座責任者 山田 和則(花高小校長)
 研究員 浅木 弘子(中里小) 道下 健悟(日野小)
 (教諭) 平川 透(白南風小) 荒木 祐子(三川内中)
 前田一樹(鹿町中) 松永 雄平(黒島中)
 センター所員 宮崎義高

<主題> 「よりよい生き方をめざす子どもの育成」

～他者とかかわりながら、自己をみつめ、心を磨き合う道徳科の授業を通して～

■研究仮説

道徳科の授業を中心に、他者とかかわりを大切にしながら自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、思いや考えを表現する活動を取り入れることで、よりよい生き方をめざす児童生徒を育成することができるであろう。

■本年度の取組

本年度は3か年計画の最終年度であり、リーフレットの作成やフォーラムでの発表を行った。本研究では、学習指導要領の改訂の基本方針を踏まえ、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度の道徳の教科化に向けて、研究主題に迫るための仮説検証の授業実践を行った。また、夏季休業中には、国立教育政策研究所 西野真由美先生をお招きし、指導助言をいただいた。これまでの研究をもとに、児童生徒に、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養わせるために、さらなる研鑽を重ねていく。

「外国語・英語」（1年次）



講座責任者 古庄 忍(光海中教頭)
 研究員 摩嶋 俊祐(相浦小) 松尾 瞳(楠栖小)
 (教諭) 松田 典代(天神小) 小宮 昭子(清水中)
 山口 直美(光海中) 大坪 真梨子(日宇中)
 センター所員 森 恵司 川上 登

<主題> 「コミュニケーション能力をはぐくむ外国語教育の推進」 ～発問や指導法の工夫を通して～

■研究仮説

あらゆる教育活動や生活体験で身につけてきた知識を引き出し、児童・生徒の思考に働きかけ、学んだことを英語で表現させたり、繰り返し活用させたりすることで、コミュニケーション能力の育成につなげることができるだろう。

■本年度の取組

本年度は2か年計画の1年目であり、小学校における英語の教科化をはじめとする、次期学習指導要領における視点を考慮しながら、進めてきた。特に、発問や指導法を工夫し、インプットからアウトプットにつなげる活動を設定することで、児童・生徒が英語で学ぶための手立ての充実を図ってきた。

来年度の発表に向けて、長崎県立大学の山崎祐一教授に、指導、助言をいただきながら、研究員それぞれが互いに学び合うとともに、毎日の実践を積み重ねていく。

長崎県内教育研究所連盟教育フォーラム

研究調査「道徳」による発表

平成30年1月18日(木)佐世保市教育センターにて長崎県内教育研究所連盟教育フォーラムを開催しました。

午前中は、初めに長崎県教育センターから「特別支援学級、通級指導教室担当者の専門性向上に向けた取組について～教育課程の編成と個別的教育支援計画の作成を中心に～」の発表がありました。次に、佐世保市教育センターから研究調査「道徳」の研究員が「よりよい生き方をめざす子どもの育成～他者とかかわりながら、自己をみつめ、心を磨き合う道徳科の授業を通して～」と題して、3年間の研究の成果を発表しました。

午後には、長崎市教育研究所から「教科指導におけるICT活用の推進～ICTを用いた主体的な学び・対話的な学び・深い学びを目指して～」の発表がありました。その後、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 西野 真由美 総括研究官より「新学習指導要領のポイントとこれからの道徳教育の展開」と題して講演をしていただきました。

約200名の受講者のもと、大変充実したフォーラムとなりました。



■ 経年研修

初任者研修 人権教育



8月28日(月)

講義 「社会人としての人権感覚」

講師 佐世保市 市民生活部

人権男女共同参画課

主幹 川尻 佳嗣

中堅教諭等資質向上研修 男女共同参画



12月15日(金)

講義 「働き方改革とワーク・ライフバランス」

講師 スピカセンター長 竹口 奈保美

講義 「性暴力被害の実態について」

講師 長崎犯罪被害者支援センター

「サポートながさき」 平山 由美子

■ 情報教育研修

オフィスソフトの活用



12月13日(水)

講義 「オフィスソフトを活用した授業改善及び校務軽減について」

講師 マイクロソフトインストラクター

プログラミング教育



1月15日(月)

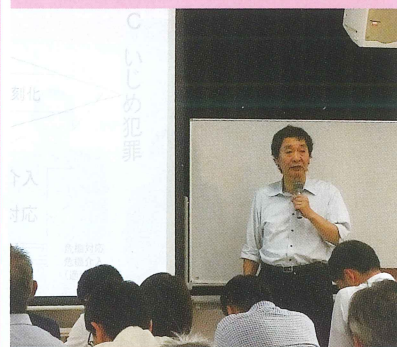
講義 「CS アンブラグドから始めるプログラミング教育」

講師 長崎大学 准教授 倉田 伸

中村 千秋

■ 職能研修

生活指導主任・生徒指導主事研修



9月15日(金)

講義 「ネットいじめやケータイ問題に関する教師の指導について」

講師 鳴門教育大学 教授 阪根 健二

研究主任研修



12月5日(火)

講義・協議 「今後の校内研修の活性化のために」

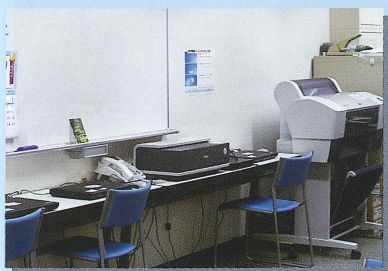
講師 学校教育課 学力向上担当

■ 教育センターからのお知らせく教材開発室について>

ご利用について

- ・ 平日及び土・日・祝日の9:00～21:00です。
- ・ 予約する必要はありません。来所時に1階総合窓口にて申し出てください。
- ・ 利用後に、必要事項を記入した利用表を1階総合窓口に提出してください。
- ・ 使用料や印刷等にかかる費用は無料です。

★会議やグループ(サークル)での研修等には、ご利用いただけません。



設備や備品について

- ・ 教育に関する書籍や研究紀要
- ・ ノートパソコン3台
- ・ スキャナ
- ・ 大判用カラープリンタ
- ・ インクジェットプリンタ
- ・ デジタルテレビ
- ・ DVD プレイヤー

自分のアカウントでパソコンを起動すれば、学校と同じネットワーク環境で作業できます。

掲示用ポスター等のカラー印刷(模造紙サイズ・長尺ロール紙)が可能です。

書籍について

- ・ 今年度は43冊の新刊を整備しました。貸出しも可能です。
- ・ 書籍の一覧表を教育センター Web ページで紹介していますのでご参照ください。